

第2部 子どもの食事に関すること

1 子どもの食事に関する状況

(1) 子どもの主要な食物の摂取頻度

12種類 of 食物等（米飯、野菜、果物、大豆・大豆製品、海藻類、芋類、魚介類、肉類、ジュース・甘い飲み物、外食、インスタント食品、揚げ物）について、摂取頻度の質問を行った。

米飯については、「ほぼ毎日」と回答したものが、朝食では58.1%、夕食では80.5%で最も多い回答であった。（図27）

野菜については、「ほぼ毎日食べる」と回答したものが58.8%、「ほとんど食べない」と回答したものが7.2%であった。（図28）

果物、大豆・大豆製品、海藻類、芋類、魚介類、肉類の全てにおいて、「週2～3日程度」と回答したものの割合が最も多く（それぞれ41.9%、47.0%、52.8%、58.2%、62.3%、44.8%）、魚介類と肉類で比較してみると、「週4日以上」と回答したものの割合が、魚介類（19.2%）より肉類（51.6%）の方が高いという結果であった。（図29）

ジュース・甘い飲み物においては、「週1～2日程度（44.8%）」が最も多かった。しかし、「週3日以上」の回答を合計した割合は51.6%であり、「週1～2日程度」と回答したものより多かった。（図30）

外食、インスタント食品においては「月1～2回程度」（それぞれ75.3%、66.0%）、揚げ物においては「週1～2日程度（52.5%）」と回答したものの割合が最も多かった。（図31）

図27 朝食と夕食の米飯摂取状況

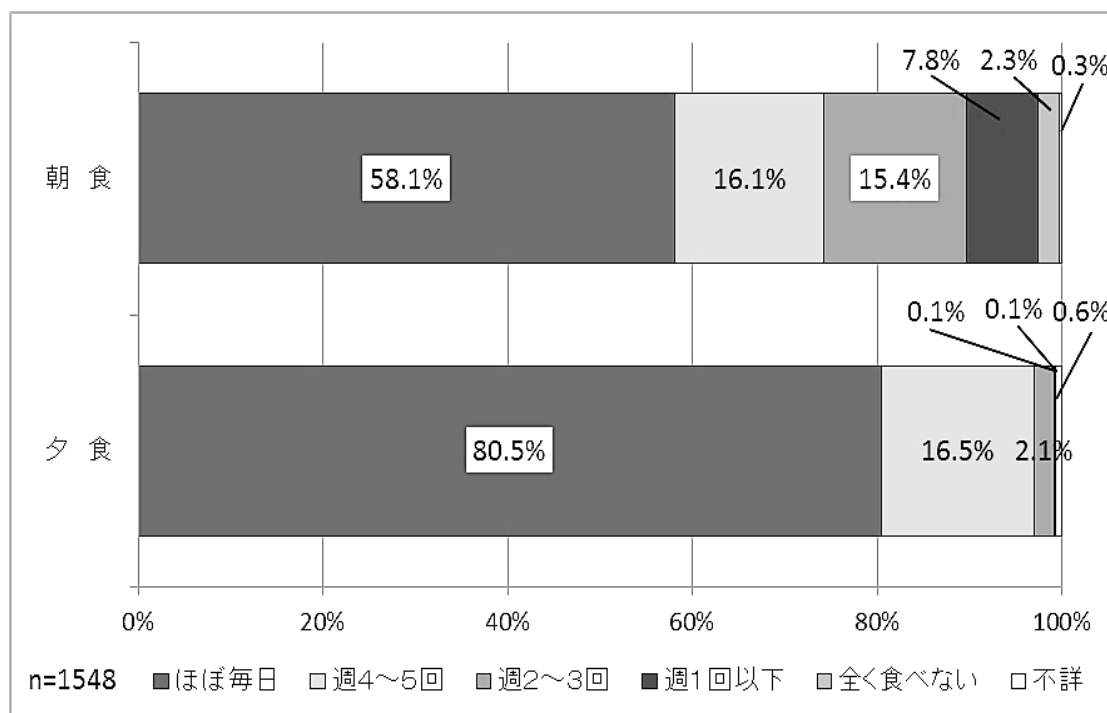


図 28 野菜の摂取状況

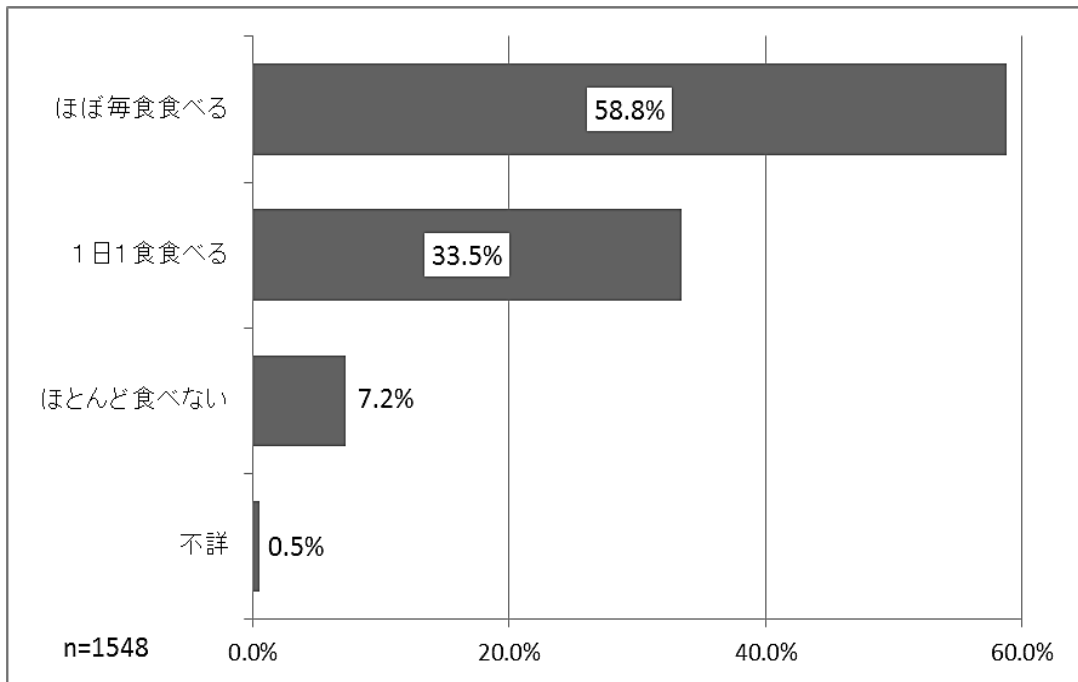


図 29 果物、大豆・大豆製品、海藻類、いも類、魚介類、肉類の摂取頻度

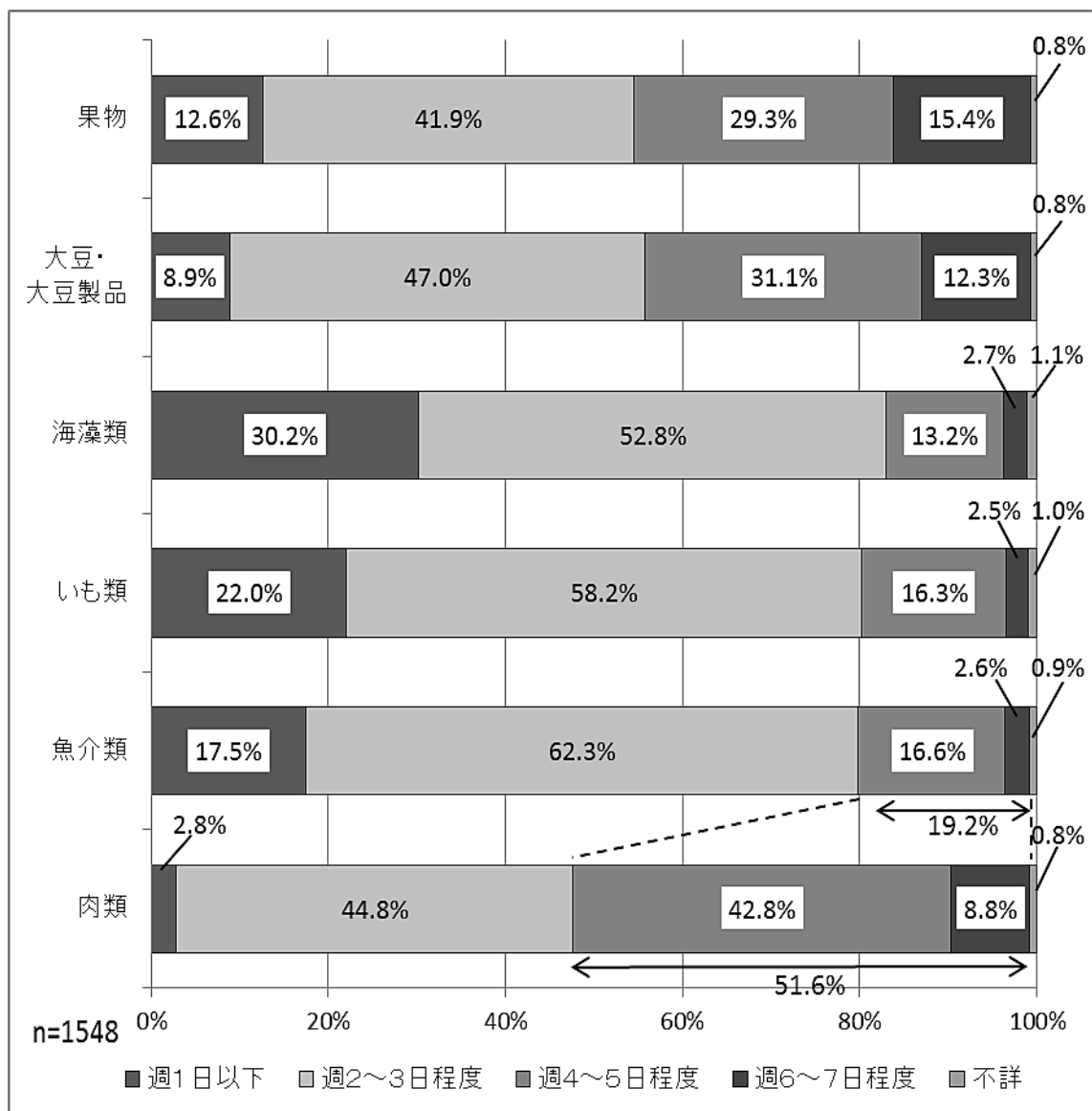


図 30 ジュース・甘い飲み物の摂取頻度

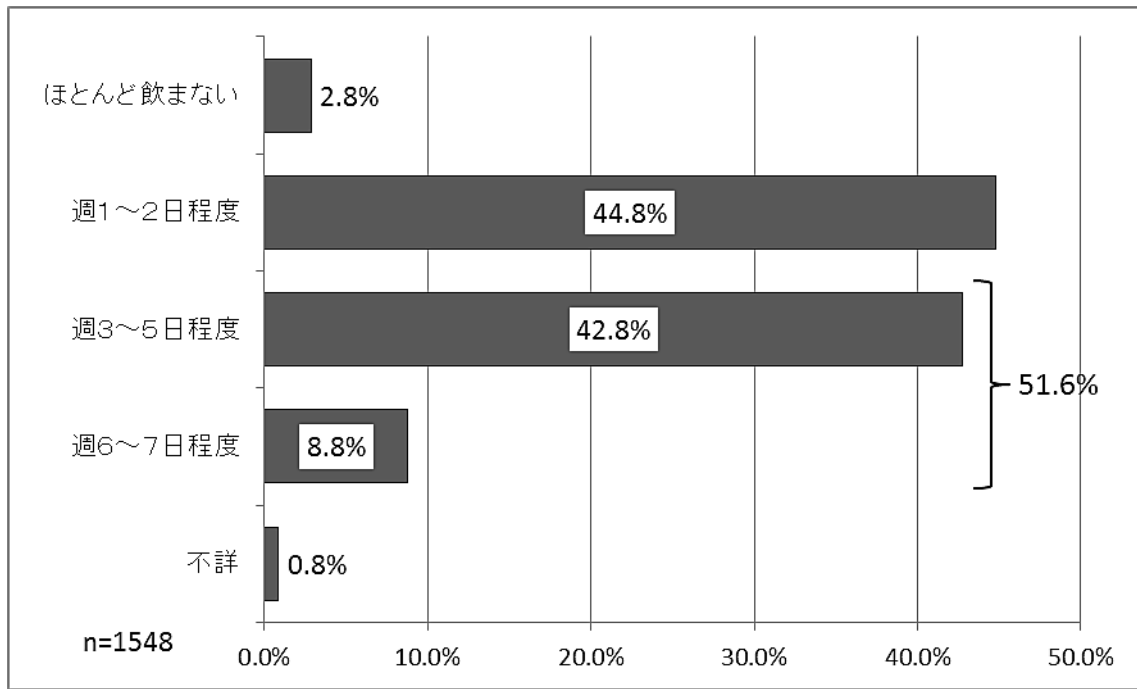
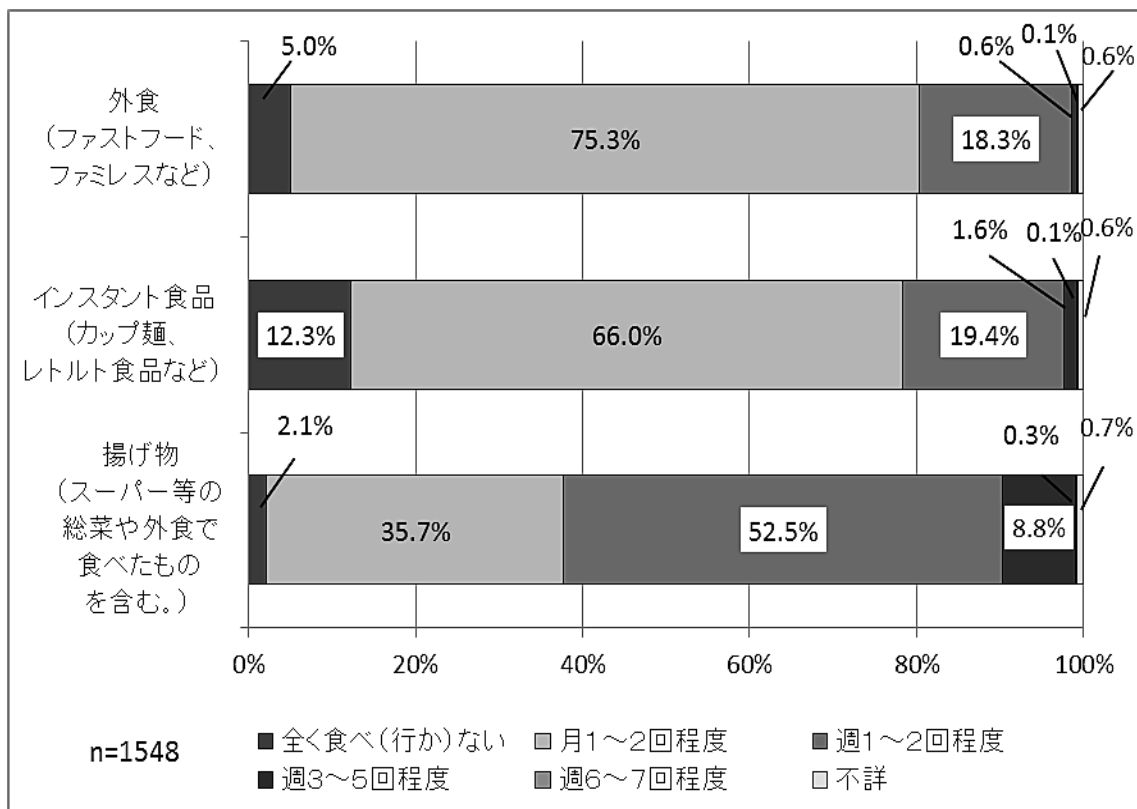


図 31 外食、インスタント食品、揚げ物の摂取頻度



(2) 子どもの間食の状況

子どもの間食の与え方について、与える時間帯では、「15～17時までの間」が最も多く（1117名、77.0%）であった。おやつを与える時間帯別におやつの量を決めて与えているか見てみると、夕食の直前（59.7%）、夕食の後から寝るまでの間（52.3%）の順でおやつの量を決めないで与えているという傾向が見られた。（図 32）

また、第1部でも示したとおり、歯科検診の結果別におやつの量を決めて与えているかを見てみると、要治療者において、おやつの量を決めて与えていない傾向が見られた。（図 33）

図 32 おやつを与える時間帯別 おやつの量を決めて与えているか(未回答及び家でおやつは食べないと回答したものを除く)

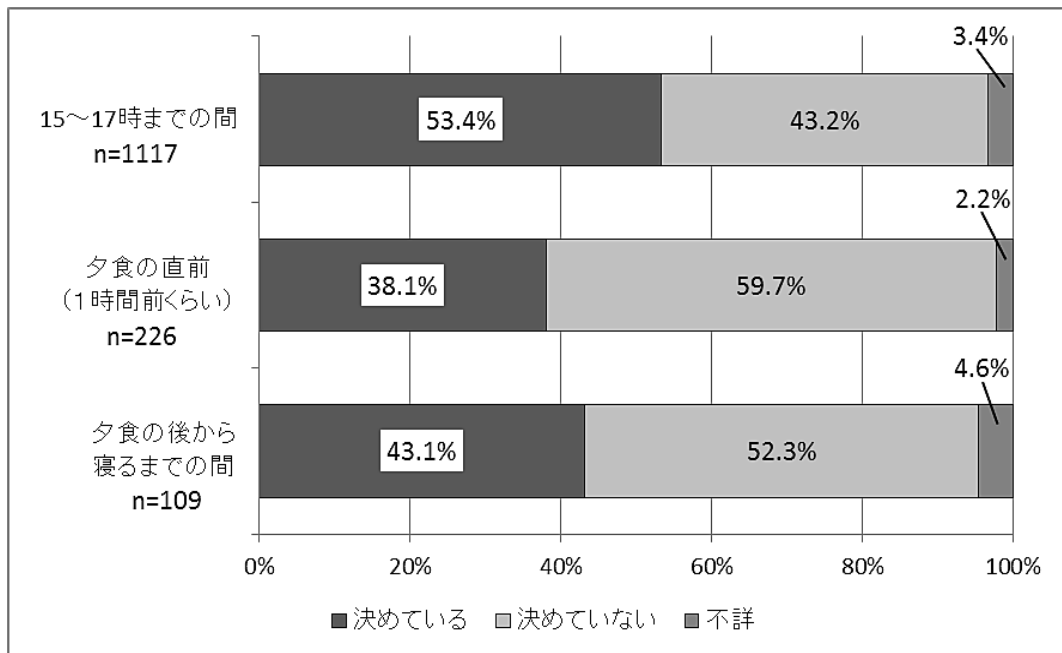
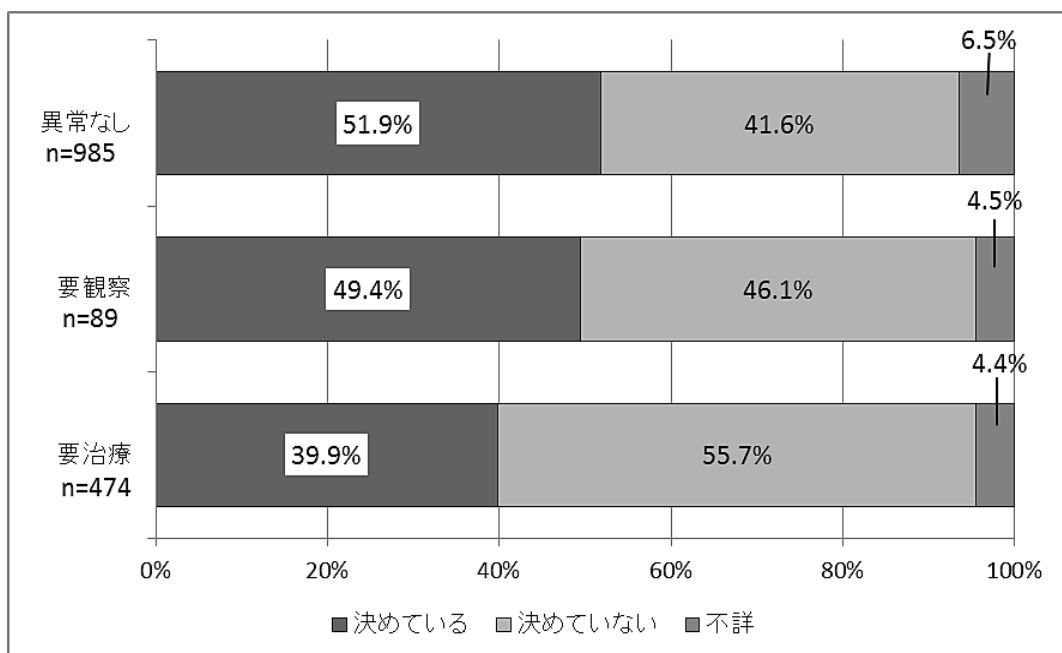


図 33 歯科検診結果別 おやつの量を決めているか (第1部より再掲)



(3) 野菜の入手方法や食の安全に関する情報収集の状況

野菜の入手方法について、震災前と震災後の状況を比較したところ、震災前は「購入」していたと回答した者は58.5%だったのに対し、震災後は「購入」していると回答した者は82.7%と増加傾向が見られ、「自家栽培」や「購入と自家栽培の半々」と回答した者の割合は、震災前の状況に比べ、震災後で減少傾向が見られた。(図34)

また、保護者の食の安全に関する情報収集の状況については、情報収集を「やっている」と回答した者は3.4%、「どちらかというとやっている」が29.4%、「どちらかといえばやっていない」が47.2%、「やっていない」が18.1%という結果であった。(図35)

図34 震災前と震災後の野菜の入手方法

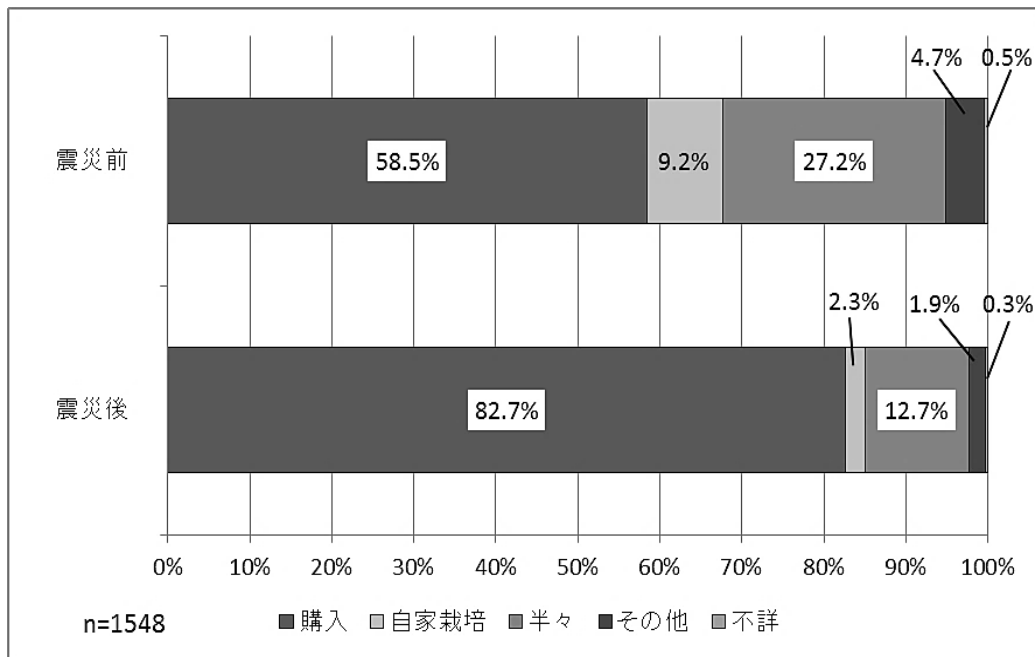
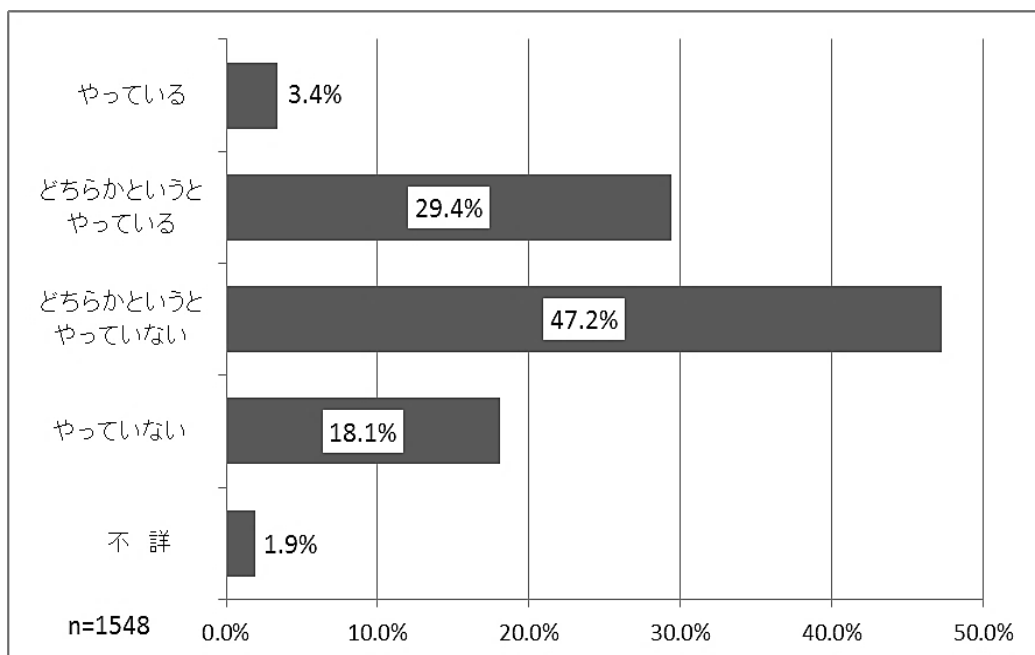


図35 保護者の食の安全に関する情報収集の状況 「情報収集を」



(4) 食事づくり担当者について

食事づくり担当者は、「母」が1210名で最も多く、次いで、「祖父母」が215名という状況であった。就労状況としては、「父」及び「その他」では、「フルタイム」が最も多く（それぞれ93.8%、58.3%）、「母」及び「祖父母」では、「働いていない」が最も多かった（それぞれ34.8%、59.5%）。
 (図 36)

図 36 食事づくり担当者別 就労状況 (食事づくり担当者不詳を除く)

